

2017年9月21日
平成29年度 長野県立高等学校学校司書研修会

探究型学習を推進するために高校図書館ができること
～実践につなげるためのワークショップ～

信州大学附属図書館
管理課長／副館長（事務担当）
森　いづみ
mori_izumi@shinshu-u.ac.jp

写真：信州大学附属図書館（左から中央図書館、教育学部、医学部、工学部、農学部、繊維学部の各図書館）

平成29年度研修会のねらい

- ねらい
  - ✓ 探究型学習の推進のために図書館に求められている機能を考えるには、まず、私たち自身が、探究型学習を実体験を通して理解し、関係者と協働しながらプロジェクトを進めていくスキルとマインドが必要です。
  - ✓ 本日の研修自体をアクティブ・ラーニング型で実施します。情報リテラシー教育・学習支援について、大学の動向を知ったうえで、課題解決グループワークを体験し、アイデア創出ワークショップを行うことで今後の取組につなげます。

研修の構成と時間配分

- レクチャー：45分
  「今、大学図書館の現場で起こっていること
  ～ 学習・教育支援の実際 ～」 Hop
- グループワーク（前半）：90分
  「課題解決」ワークショップの体験 Step
- グループワーク（後半）＋発表
  ：80分＋40分
  「探究型学習のために
  図書館ができること」の提案 Jump

レクチャー：大学図書館の動向を知る

「今、大学図書館の現場で起こっていること
～ 学習・教育支援の実際 ～」 Hop

- 図書館が大学教育にコミットする背景には、大学教育改革、高大接続改革がある
- 図書館は学習・教育支援として従来からやってきた
  - ✓ 教育内容に関連した蔵書・コンテンツの整備／提供＜情報＞
  - ✓ 授業外の自習場所の提供＜空間＞
  - ✓ レファレンスサービスや、利用者教育の延長としての情報リテラシー教育＜人＞
- 新たに求められていること
  - ✓ ＜情報・空間・人＞という要素は同じ
  - ✓ その中身が変わってきた
  - ✓ どのように変わってきたのか？

新たに求められていること

大学図書館の整備について（審議のまとめ）

ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー（平成22年12月）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

- 学習支援及び教育活動への直接の関与
- キーワード：
  - **ラーニングコモンズ**：複数の学生が集まって、電子情報資源も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」
  - 図書館職員等が、それらを使った学生の自学自習を支援。教員や図書館職員だけではなく、大学院生や学部3、4年生などが自身の経験などに基づき下級生を指導する体制を組織化

信州大学 附属図書館

新たに求められていること

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）（平成25年8月）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houkoku/1338888.htm

- キーワード：
  - **学習環境充実に関わる学術情報基盤整備の三要素**：コンテンツ、学習空間、人的支援が改めて定義された
  - **アクティブ・ラーニング（能動的学修）**
    「教育振興基本計画」（平成25年6月閣議決定）
    学生の主体的な学びの確立に向けた大学教育の質的転換
    「学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化」という文言が盛り込まれた

信州大学 附属図書館

高大接続システム改革のねらい

高大接続システム改革会議の『最終報告』（平成28年3月）
→大学教育改革、高校教育改革、大学入学者選抜改革の「三位一体の改革」

- 背景
  - 国内外の大きな社会変動（グローバル化・多極化の進展、新興国・地域の勃興／生産年齢人口の急減や地方創生への対応など）
  - 「多様な人々と協力し主体性を持って人生を切り開く力」や「知識の量だけでなく、混とんとした状況の中に問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造する資質や能力」が重要である
- まとめ
  - 先行き不透明な社会で生きる人々に不可欠な資質・能力を育成する場である高等学校や大学は、我が国社会の基盤を形成するための公共財
  - 置かれた境遇を問わず、全ての人々が充実した教育を通じて高い資質・能力を身に付け、それぞれの選ぶ道で輝き活躍できる社会の実現
  - 関係者はもちろん広く社会全体で知恵を出し合いながら取り組む必要がある

出典 高大接続システム改革会議『最終報告』（平成28年3月）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/toushin/1369233.htm

信州大学 附属図書館

高大接続システム改革のねらい

高大接続システム改革会議の『最終報告』
（平成28年3月）

2021年1月～の「大学入学共通テスト」にもこうした考え方が反映される

- 教育改革において身に付けるべき力「学力の3要素」
  1. 十分な知識・技能
  2. それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力
  3. これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

アクティブ・ラーニングによって身に付くことが期待される → 教育手法としてのアクティブ・ラーニング型授業

出典 高大接続システム改革会議『最終報告』（平成28年3月）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/toushin/1369233.htm

信州大学 附属図書館

アクティブ・ラーニングの定義

- 「読解・作文・討論・問題解決などの活動において分析・統合・評価のような高次思考を行う学習」
  山内祐平ほか「ワークショップデザイン論」慶應義塾大学出版会、2013.6
- …Student must do more than just listen: They must read, write, discuss, or be engaged in solving problems.
  Charles C. Bonwel and James A. Eison "Active Learning: Creating Excitement in the Classroom" ASHE-ERIC Highter Education Reposrts, 1991

- アクティブ・ラーニングを生かすには
  - ✓内化（＝インプット） 読む・聴くなどを通して知識を習得したり、活動（外化）後のふり返りやまとめを通して気づきや理解を得たりすること。
  - ✓外化（＝アウトプット） 書く・話す・発表するなどの活動を通して、知識の理解や頭の中で思考したことなど（認知プロセス）を表現すること。可視化とも呼ばれる。
  - ✓内化・外化のカップリング、内化→外化→内化の往還が重要

溝上慎一「外化なしの学習は思考力育成を放棄しているに等しい ー外化としてのアクティブラーニングの意義」
http://smizok.net/education/subpages/a00010(ALgaika).html

信州大学 附属図書館

アクティブ・ラーニングの技法例

- 反転授業（Flipped Classroom） →事前課題として取り入れる
  - ✓「知識の伝達」はなるべく事前に行い、授業（集合研修）では、一人ではできないインタラクティブな（双方向性のある）活動を多く取り入れる。
- ペアワーク（Think-Pair-Share） →レクチャーの中で取り入れる
  - ✓自分で考える→隣の人と意見交換する→全体で共有する
- ジグゾー法（Jigsaw Method） →グループワーク（前半）で取り入れる
  - ✓あるテーマについて複数の視点で書かれた資料をグループで分けて読み、自分なりに納得できた範囲でメンバーに説明し合う。
  - ✓交換した知識を統合してテーマ全体の理解と課題解決に繋げる、協調的な学習法。「個の理解」→「共有化」
- ラウンドロビン（Round Robin） →グループワーク（後半）で取り入れる
  - ✓グループのメンバーが順にアイデアや意見を述べていく方法。
  - ✓ブレインストーミングの簡易版で、多くの人と、短時間で意見交換できる。

信州大学 附属図書館

事前課題

- 事前課題について
  - ✓今回の研修では、反転授業の考え方を取り入れます。
  - ✓事前課題に取り組んでいただくよう、お願いいたします。
- 予め、次の資料を読んできてください
  - ✓森いづみ，新しい時代にむけた教育改革を図書館は推進できるか：お茶の水女子大学「図書館入試」のチャレンジ．図書館雑誌 Vol.110 no.7 p.416 -417
    http://hdl.handle.net/10083/59986
- 資料を読んで次のことを考えてきてください
  - ✓高校現場の図書館司書として
  - ✓「図書館入試」に生徒を送り出す側として
  - ✓必要と思う要素を3つ挙げてください

信州大学 附属図書館

実践してみよう：ペアワーク

- 今回は、同じテーブルに座った3人一組でワークを行います
- ワークの進め方
  - ✓1人1分で、自己紹介（所属・名前）と考えて来たことを、グループのメンバーとシェアしてください
    - 高校現場の図書館司書として
    - 「図書館入試」に生徒を送り出す側として
    - 必要と思う要素を3つ挙げる
  - ✓3分後に、いくつかのグループから、シェアした内容を発表していただきます
  - ✓発表していただいた内容を取り上げつつ、全体で考えます

信州大学 附属図書館

お茶大図書館と入試改革

■お茶の水女子大学の入試改革

- 時期：2017年度入学者を選抜する入試から、従来のAO入試を改革した「新フンボルト入試」を開始
- 改革の目的：潜在的な能力、とりわけ大学入学後の学びや社会に出た後に、その能力を大きく伸ばせる「のびしろ」を持った学生の選抜
- 定員：現AO入試の2倍の20名
- 「現場密着型の研究と教育の一体化を提唱」した，ヴィルヘルム・フォン・フンボルト（ベルリン大学創設者）に因んで命名
- 一次選考を兼ねる文理共通のプレゼミナールと，二次選考（文系「図書館入試」，理系「実験室入試」）の二段構え
- 単に知識の多寡を問うのではなく，「課題を探求・発見」し，「必要な資料やデータを活用」し，「オリジナルな解を導き出す」力を測定する

信州大学 | 附属図書館

新フンボルト入試（概要）



平成28年度入試パンフレットより

http://www.ocha.ac.jp/news/h280126/h280126_2.pdf

- プレゼミナール
  ↓
- 一次選考
  ↓
- 二次選考

文系「図書館入試」

■１日目：附属図書館で、図書などを自由に参照しつつ課題についてのレポートを長時間かけて作成する

■２日目：グループ討論、面接

信州大学 | 附属図書館

平成27年度プレゼミナール

- 2015年8月「新フンボルト入試」の体験版としてプレゼミナールを実施
- その中の一つのメニューとして「図書館情報検索演習」を実施
- 「図書館情報検索演習」のプロセス
  1. 「課題の提示」
  2. 「情報探索レクチャー（図1）」
  3. 「レポート作成（情報探索→執筆）（図2,3）」
  4. 「グループディスカッション（図4）」

信州大学 | 附属図書館

平成27年度プレゼミナール

「図書館情報検索演習」の様子

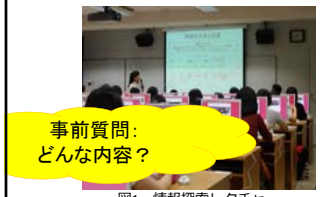


図1　情報探索レクチャー



図2　レポート作成（情報探索）


図3　レポート作成（執筆）


図4　グループディスカッション

信州大学 | 附属図書館

平成27年度プレゼミナール

- 図書館スタッフが担当したこと:
  - 各プロセスに最適な環境の整備
  - 「情報探索レクチャー」
    参考：
    「持続可能な社会の探究Ⅰ」をより楽しむための大学図書館活用術
    http://hdl.handle.net/10083/59088
  - 「レポート作成（情報探索→執筆）」のサポート
- 関係部署（入試推進室、AO入試室、入試課、および情報基盤センター）と連携し、方針や実施内容、役割分担を検討
- 共通理解の一助として、国立大学図書館協会が2015年6月に公表した「高等教育のための情報リテラシー基準」も活用

信州大学 附属図書館

参考

お茶の水女子大学附属図書館 Ochanomizu University Library

このコマの内容

1. 大学図書館ってどんなところ？（おさらい）
2. 課題の設定から論文作成まで（プロセスを知る）
3. 実践してみよう！（情報検索・入手のスキルを身につける）
   - ① お茶大図書館で持っている本や雑誌
     OPACで検索 → 図書館内で探す
   - ② お茶大図書館で使える電子的な情報
     朝日新聞データベース「聞蔵IIビジュアル」
     辞書・事典「JapanKnowledge」
   - ③ 信頼できるウェブ情報
     統計資料を探す → 政府白書、統計など
     雑誌論文を探す → CiNii Articles

   さまざまなメディアがあり特徴がある
4. 著作権・引用のルールについて

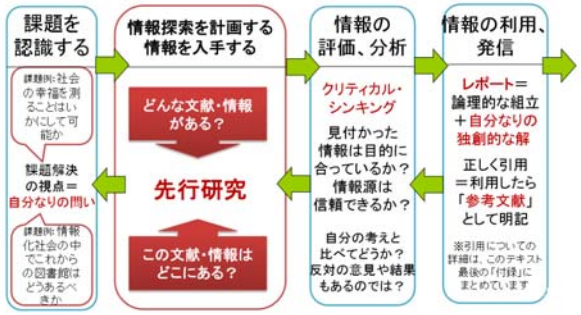
信州大学 附属図書館
「持続可能な社会の探究Ⅰ」をより楽しむための大学図書館活用術
http://hdl.handle.net/10083/59088

参考

お茶の水女子大学附属図書館 Ochanomizu University Library

課題の設定から論文作成まで（プロセスを知る）

論文／レポートは、感想文や小論文と違い、自分の考えだけに基づいて書くのではなく、先行文献や客観的なデータを元に、自説を組み立てる必要があります。



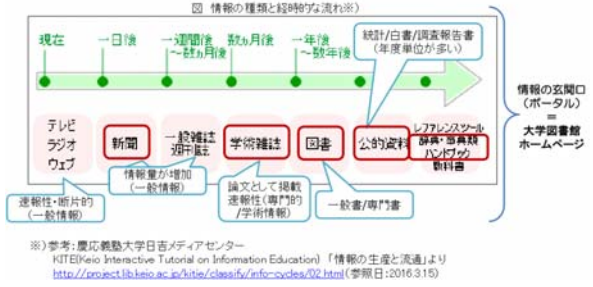
信州大学 附属図書館
「持続可能な社会の探究Ⅰ」をより楽しむための大学図書館活用術
http://hdl.handle.net/10083/59088

参考

お茶の水女子大学附属図書館 Ochanomizu University Library

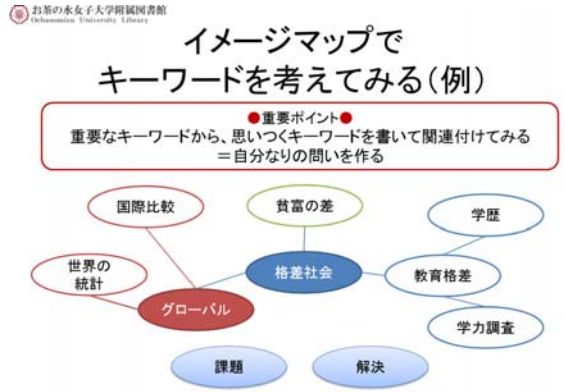
情報の生産と流通

●重要ポイント●
情報を効率的に調べるための戦略を立てるために、メディアの特徴、情報がどのように生産され、流通しているのかを知っておく！



信州大学 附属図書館
「持続可能な社会の探究Ⅰ」をより楽しむための大学図書館活用術
http://hdl.handle.net/10083/59088

参考



「持続可能な社会の探究Ⅰ」をより楽しむための大学図書館活用術
http://hdl.handle.net/10083/59088

信州大学 | 附属図書館

平成27年度プレゼミナール

●重要なコンセプト：
- 「受験の有無、合否に関わらず、参加者にお土産（大学においても、社会においても、必須の能力）を持ち帰ってほしい」　（by入試推進室長）
- 「本学図書館を自由に使ってレポート作成、発表」
  →いかに実現するか？

●実現方策：3つの方針
1. コンテンツは、ネットワーク上の情報環境を含め、本学の学部学生と同じ条件で使えること
2. 人的なサポート体制を整えること
3. 場所は、図書館のラーニングコモンズのパソコンや、グループディスカッションを行なうキャリアカフェを含め、図書館をフル活用できること

信州大学 | 附属図書館

平成27年度プレゼミナール

アンケート結果

午前・午後に各1回実施し、88名が参加（回収数：81名）

1. 「情報探索レクチャー」の理解度：「とても分かりやすかった」44%、「分かりやすかった」29%、「少し難しかった」11%、「難しかった」4%
2. 有益度：「とても有益だった」72%、「有益だった」22%、「知っていることが多かった」2%、「ほとんど知っていることだった」0%
3. 「レポート作成の際のTA・図書館スタッフの支援や助言」：「有益で助かった」83%、「少し役に立った」12%、「あまり有益でなかった」 0% 「有益でなかった」0%

   →これらの結果から、参加者の満足度が高かったことが窺われる
4. 「レポートのための材料として参照したもの」は、「図書館の蔵書＋Webサイト」が最も多く、ついで「図書館の蔵書（紙媒体）のみ」

   →学びの場で使われるコンテンツの傾向を垣間見ることができた

信州大学 | 附属図書館

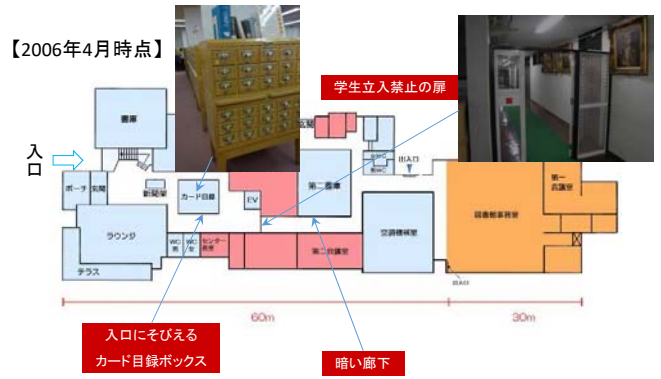
「図書館入試」３つの背景

- **そもそもなぜ、「図書館入試」を思いついてもらえたのか？**
- **「教職協働」「教員との信頼関係の構築が大切」とはよく言うけれど？**

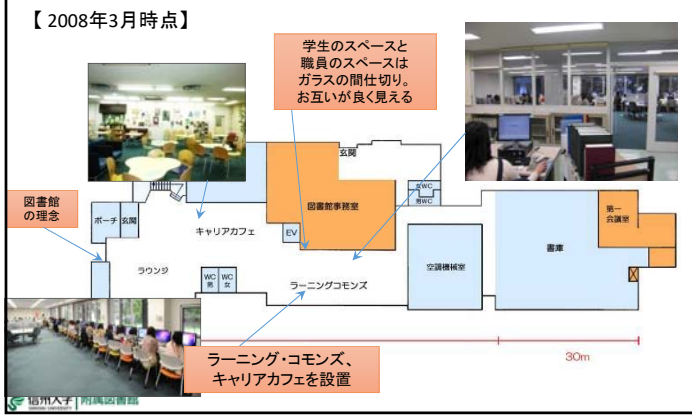
1. 学びの場づくり：2007年にラーニングコモンズやキャリアカフェを設置し、学内の学習支援部署とのネットワークを築きつつ学びの場を提供してきた
2. 情報リテラシー教育：初年次教育の必修授業での講習会やクラス単位のオーダーメイド講習会を積極的に実施してきた
3. ピアによる学習支援：図書館内で行うTA（Teaching Assistant）相当の学習サポーターとして、従来のICTリテラシー中心のLA(Learning Adviser)を、アカデミックスキルズ全般の支援を担うLALA(Library Academic Learning Adviser)にリニューアルした

信州大学 | 附属図書館

「図書館入試」３つの背景
１．学びの場づくり（改革前）



「図書館入試」３つの背景
１．学びの場づくり（改革後）



「図書館入試」３つの背景
１．学びの場づくり（使われ方の例）



企業側：
大規模教室では見えない生のお茶大生が見える



大学／学生側：
日常的に行く図書館でやっているから、イベントの視認性高い

キャリアイベント@図書館　平成26年度実績

回数（企業説明会、OG懇談会等） 88回
延べ参加学生数　3,591名
（内訳） 前期 10回　参加学生 596名、 後期 78回　参加学生2,995名

「図書館入試」３つの背景
１．学びの場づくり（使われ方の例）

- 留学関連イベントの様子
（国際課・グローバル教育センターとの連携）



交換留学生の帰国報告会
@1階キャリアカフェ
→大人数OK！
やっていることが、参加者以外にも伝わる



留学体験者相談会／
留学カリキュラムデザイン相談
@2階グローバルスタディーコーナー
→より詳しい相談が可能

「図書館入試」３つの背景
２．情報リテラシー講習会（ニーズに応じた対応）

- 第一期（2007～2008）
  - ・サービス担当常勤職員2名で細々と「論文検索講習会」を実施。
    → テーマは「効率的な文献の探し方」（DBの利用を伸ばす目的も）
- 第二期（2009～2012）
  - ・課内プロジェクトグループとしてリテラシー教育に取り組むことに。
  - ・サービス担当常勤だけではなく、非常勤さんや他の担当もメンバーに加わり、「図書館を使いこなそう！」と名称も変更。
    → DBの使い方だけではなく、図書館全体を学びに活かして欲しいという願いを込めた。
    → メンバーが増えたことで内容も充実。
  - ・並行して、教員の依頼を受けて「授業内ガイダンス」を開始。
    → 名称を「オーダーメイド講習会」に変更。

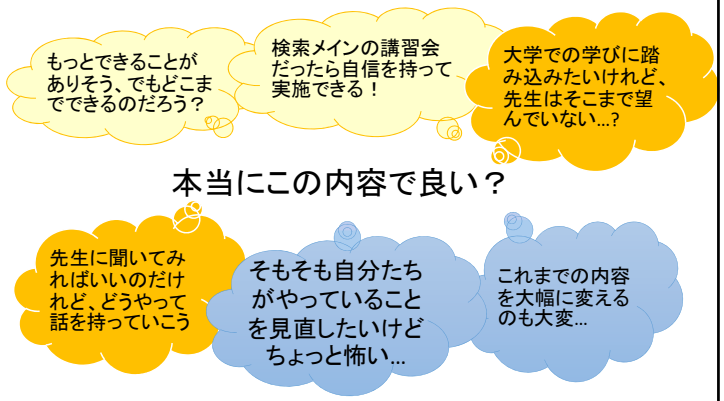
お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16　餌取直子さん発表資料より

「図書館入試」３つの背景
２．情報リテラシー講習会（ニーズに応じた対応）

- 第三期（2012～2014）
  - ・「オーダーメイド講習会」依頼数が増加。リピーターも多数。
  - ・教員から、初年次の必修授業にした方が良いとの提案が！
    → 提案通りとはいかなかったが、1年生必修の情報処理関係の必修授業に組み込んで貰えることに！1コマまたは半コマで実施。
  - ・しかし、オーダーメイド講習会の人気とは裏腹に、図書館主催講習会の参加人数は減少
    → 仕事のスクラップ&ビルド：人気のRefWorks講習会のみ開催することに。
- 第四期（2015～）
  - ・従来のAO入試を改革した「新フンボルト入試」のうち、文系受験者向け「図書館入試」を実施することに決定。プレゼミナールや二次試験での「図書館情報探索演習」に全面協力。
  - ・附属高校の「探究型授業」での講習会も担当。

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16　餌取直子さん発表資料より

「図書館入試」３つの背景
２．情報リテラシー講習会（ニーズに応じた対応）



お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16　餌取直子さん発表資料より

「図書館入試」３つの背景
２．情報リテラシー講習会（ニーズに応じた対応）

- 楽しく見直すチャンス到来！

「高等教育のための情報リテラシー基準（ドラフト2.3）」への意見を出すために、体系表を使って1年生向け講習会テキストを見直すとともに、ドラフトの評価もしてみよう！

・2014年8月7日（木）　10：00～11:30
・リテラシー教育グループ前期活動レビューの会
・リテラシー教育G 6人＋研修で来ていた東京都公立学校教員2名
・グループワーク形式で実践してみた

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16　餌取直子さん発表資料より

「図書館入試」３つの背景
２．情報リテラシー講習会（ニーズに応じた対応）

- 情報リテラシーを、高等教育の学びの場で必要な、課題認識から情報発信にいたるまでの情報活用能力としています。
- 高等教育の場で能動的学習（アクティブ・ラーニング）を進めるためには、汎用的技能としての情報リテラシーが欠かせないと考えられます。
- アクティブ・ラーニングを通じて、学生はその情報リテラシーをより高めていくと考えられます。

→学習者が課題に取り組むにあたり情報を活用していくプロセスを6つに整理
1. 課題を認識する
2. 情報探索を計画する
3. 情報を入手する
4. 情報を分析・評価し、整理・管理する
5. 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する
6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する

http://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503b.pdf

信州大学 | 附属図書館

高等教育のための情報リテラシー基準活用体系表

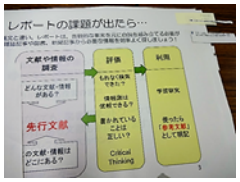


信州大学 | 附属図書館

「図書館入試」３つの背景
２．情報リテラシー講習会（ニーズに応じた対応）







研修に来ていた高校の司書さんも一緒にワーク！

①テキスト（ppt)を１枚ずつA3にプリント

②活用表の「初級」を切り取り、項目別に色分けしたものを数セット用意。

③どのスライドがどの項目に合致するか意見交換。合致する項目をテキストに貼る。

④すべてのページが終了したら、全体を見直してどの部分ができていたか、足りない分はどこかを検討。

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16　餌取直子さん発表資料より

信州大学 | 附属図書館

「図書館入試」３つの背景
２．情報リテラシー講習会（ニーズに応じた対応）

- 見直しの結果

・講習会でカバーできている内容を確認できた！
・足りない箇所も分かった。そんなに手間をかけずに修正できそう！
・スライドが意図する効果（目的）が明確になったので、説明に説得力が増しそう！
・複数人でレビューしたことで、より客観的に評価できた！

改善へのモチベーションUP　＆
これで良かったんだという自信

2015年度の新入生向け講習会のテキストに反映
※著作権に関するスライドを追加し、「引用」についての説明を強化

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16　餌取直子さん発表資料より

信州大学 | 附属図書館

「図書館入試」３つの背景
３．ピアによる学習支援（LAからLALAへ）

- ラーニングアドバイザー（LA）の経費
  - ✓ 特別経費「学生主体の新しい学士課程の創成　−21世紀型リベラルアーツと複数プログラム選択型専門教育−」
    →平成25年度で終了
- LAの中身
  - ✓ LAの業務内容はPCやプリンタのサポートが中心
    →「ラーニング」アドバイザーと言えるの？
    →「アクティブ･ラーニング」の場になっているの？
- 情報リテラシー教育支援のあり方は？

信州大学 | 附属図書館
37

新しい展開

- 新図書館構想に取り組むことに（平成25年6月）
  - −附属図書館運営委員会の下にWGを設置
  - −サブグループ（空間機能、蔵書・コンテンツ、人材育成）を設置
  - −メンバーは、教員4名、職員4名
- 新図書館を創立140周年記念事業と位置付けることに（11月）
  - 寄付事業
  - 一部局から全学へ

ピンチはチャンス！

信州大学 | 附属図書館

新しい展開

- 新図書館構想WG報告書を提出（平成26年2月）

「創造的学びと人類智が交差する空間をめざして：
～お茶の水の源泉から世界の大海へ～」

新しい図書館の三つの柱（ビジョン）
（１）知の源泉となる蔵書・コンテンツの充実を図ります
（２）創造的学びの場としての空間機能を提供します
（３）人類智が交差する場として人と人とのつながりを支援します→新しい人材の開発育成・コミュニティ作り

アクティブ･ラーニング（能動的学習）型の学びがサポートできること

信州大学 | 附属図書館

お茶大アクティブ・ラーニング実践例

- LIDEE “Life Innovation by Design and Engineering Education” http://www.eng.ocha.ac.jp/lidee2013.pdf
  ワークショップ形式を基本とした「問題解決型」のプログラム

「アクティブ・ラーニング」としてのLIDEEの特徴

✓チーム作業：自分の考えを他者に伝え、また他者の考えを知ることを体験してもらうため、チームによる作業が基本

✓ワークショップ：結果では無く過程を重要視すること、多様な視点や考え方の「気づき」を体験してもらうため、ワークショップ形式での作業を行う

✓現場調査や専門家の参加：机上の議論だけでは無く街に出てヒアリングをするなど、現場での体験を重視。できるだけ外部の専門家をお呼びして、現場の声を聴く機会を設定

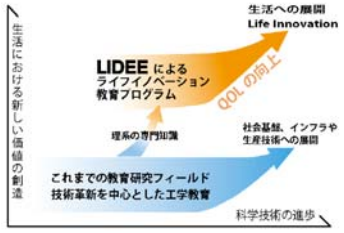
出典：松田雄二『新図書館構想WG 空間SG「LIDEE」プログラムの報告』
平成25年9月10日　新図書館構想WG第2回打合せ資料

信州大学 | 附属図書館

お茶大アクティブ・ラーニング実践例

- LIDEEの活動から見た求められる空間
  - ✓ワークショップの場
  - ✓発表・講評の場所
  - ✓情報の加工の課題

＋事前調査やアイデア出しのスキルも必要？

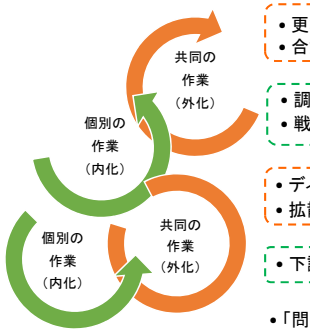


出典：松田雄二『新図書館構想WG 空間SG「LIDEE」プログラムの報告』
平成25年9月10日　新図書館構想WG第2回打合せ資料
URL:　http://www.eng.ocha.ac.jp/lidee.html

信州大学 | 附属図書館

アクティブ・ラーニングって？

- 学修のプロセスは一方向ではない
- 場所は教室だけでも図書館だけでもない



- 更なるディスカッション
- 合意形成／成果発表
- 調べなおし
- 戦略の立て直し
- ディスカッション
- 拡散←→収斂（葛藤・軋轢）
- 下調べ／戦略
- 「問い」の設定

「行ったりきたり」のプロセスが大事

繰り返すことでスパイラルアップ

各プロセスをサポートする「人」が必要！

信州大学 | 附属図書館

学習支援は大学内のどこで行われているのか

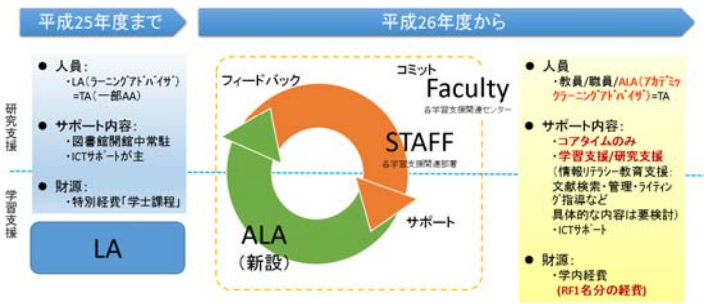
- 「学修」「学習」支援系の組織の業務内容を徹底調査した結果・・・
  - ✓ 学習支援は学内の各所で実践されているが全体としての連携はなされていない
  - ✓ 図書館がオープンマインドであることは学内で認知されている
    - ハード（建物）面だけではなくソフト（人的支援）面で展開する必要がある
    - ニッチなニーズの掘り起しができそう
    - 個別に動いているプロジェクトを繋ぐ役割を担える？
- 大学が目指す方向性に沿って
  - ✓ 学内で学習支援の活動に欠かせない存在となること
    →アカデミック・ラーニング・アドバイザーの新設

信州大学 | 附属図書館

アカデミックラーニングアドバイザーの予算要求

図書館ラーニングコモンズ（LC）における
学習/研究支援機能の強化　Part II （案）

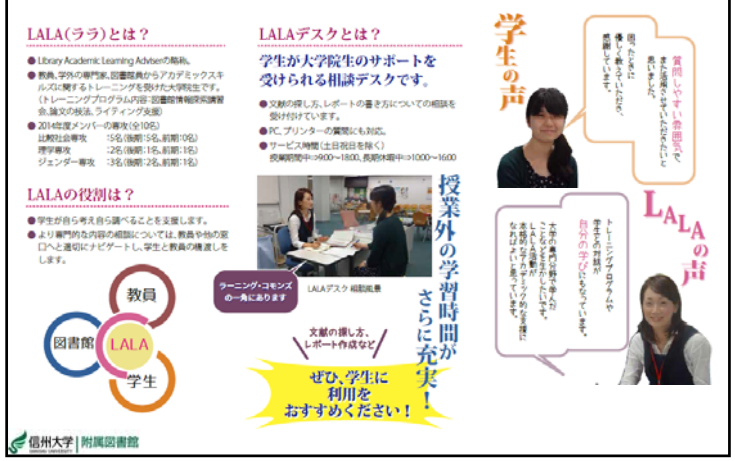
取扱注意
2014/2/7



結果的に平成26年度～LALA（Library Academic Learning Adviser）を置けることに。

信州大学 | 附属図書館

LALA（ Library Academic Learning Advisor ）広報資料より



LALA平成26年度実績と平成27年度体制

- 体制：LALAデスク1コマ1名

比較社会専攻 ：5名（後期：5名、前期：0名）
理学専攻 ：3名（後期：1名、前期：2名）
ジェンダー専攻：3名（後期：2名、前期：1名）
計：11名（応募13名）※

- 授業期間中のコマ

	①9:00～12:00	②12:00～15:00	③15:00～18:00
月	理学／後期	比較社会／後期	ジェン／前期
火	比較社会／後期	理学／前期	比較社会／後期
水	ジェン／後期	理学／前期	比較社会／後期
木	比較社会／後期	ジェン／後期	理学／後期
金	ジェン／後期	比較社会／後期	理学／前期

- 授業期間外のコマ

	④10:00～13:00	⑤13:00～16:00
月	ジェン／後期	比較社会／後期
火	比較社会／後期	理学／前期
水	比較社会／後期	ジェン／前期
木	ジェン／後期	理学／後期
金	理学／前期	ジェン／後期

※1名留学したため、後期から10名体制

- LALAデスク開設日／質問件数（忘れ物対応等を除く）

授業期間中：162日、2,831件 1日平均17.5件
授業期間外： 28日、 96件 1日平均 3.4件

- 時間帯ごとの質問の割合

授業期間中：①28.9% ②37.7% ③33.5%
授業期間外：④50% ⑤ 50%
→いずれの時間帯にも同程度の質問が来ているが、授業期間外に関しては絶対数が少なく、12:00～15:00の間に質問が集中

- 平成25年度との比較（授業期間中1日3時間減）

質問数：月平均で5割増し
平成25年（ 7ヶ月間：9月-3月）：1,251件（179件/月）
平成26年（10ヶ月間：4月-1月）：2,831件（283件/月）

アカデミックスキルズ※に関する質問数：月平均で倍増
平成25年（ 7ヶ月間：9月-3月）：35件
平成26年（10ヶ月間：4月-1月）：98件
※レポート／論文の書き方、授業の課題、情報検索、図書館案内

・平成27年度：大学院生TA 7名（継続3＋新規4）、RF 1名でローテーション

「図書館入試」３つの背景 ３．ピアによる学習支援（LAからLALAへ）



月一のミーティングや空き時間を活用し、LALA自らが考え・行動！

LALA/Library Academic Learning Adviser
博士前期課程1年 比較社会文化学専攻 矢野智子さん作成ポスターより
図書館総合展第1回学生協働サミット（2016.11.10）

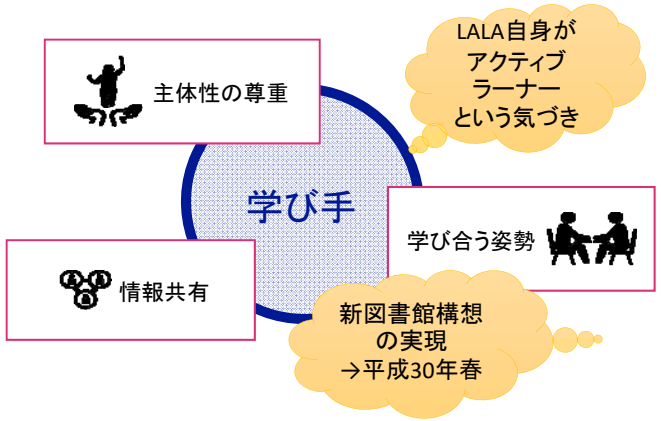
「図書館入試」３つの背景 ３．ピアによる学習支援（LAからLALAへ）



進化し続ける LALA

LALA/Library Academic Learning Adviser
博士前期課程1年 比較社会文化学専攻 矢野智子さん作成ポスターより
図書館総合展第1回学生協働サミット（2016.11.10）

「図書館入試」３つの背景
３．ピアによる学習支援（LAからLALAへ）



LALA/Library Academic Learning Adviser
博士前期課程1年 比較社会文化学専攻　矢野智子さん発表資料
活動の目的は何か？目的を達成するための工夫は？図書館総合展第1回学生協働サミット（2016.11.10）

「図書館入試」３つの背景：まとめ

「図書館入試」の発想の背景にあったのは？

①学びの場づくり：
ラーニングコモンズやキャリアカフェを設置し、学内の学習支援部署とのネットワークを築きつつ学びの場を提供してきた

単なる空間ではなく、部署を超えた協働の場として活用

②情報リテラシー教育：
初年次教育の必修授業での講習会やクラス単位のオーダーメイド講習会を積極的に実施してきた

入試担当の先生もオーダーメイド講習会を活用

③ピアによる学習支援：
図書館内で行うTA（Teaching Assistant）相当の学習サポーターとして、従来のICTリテラシー中心のLA(Learning Adviser)を、アカデミックスキルズ全般の支援を担うLALA(Library Academic Learning Adviser)にリニューアル

学び手の視点と力をサービスに活用

「教職協働」「学生協働」の小さな成功体験を

積み重ねた結果として

「教員との信頼関係」が徐々に構築できた？

信州大学 | 附属図書館

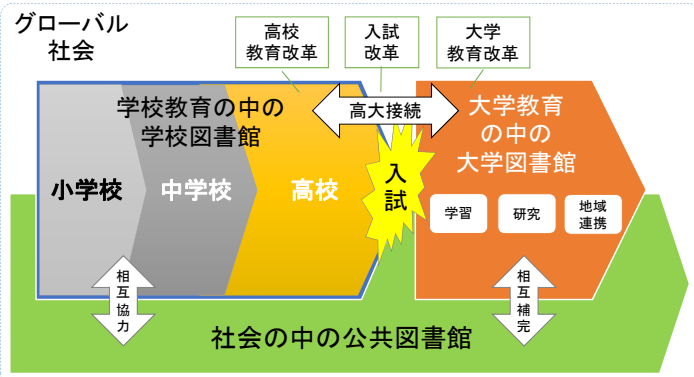
信州大学附属図書館の取組

- **職員による情報リテラシー教育**
  - 中央図書館による、初年次教育の一環としての情報リテラシー講習会（全1年生対象）
  - 各学部図書館による、専門分野についてのデータベース等の検索方法
- **学生・教員との連携によるピアサポート**
  - ラーニング・アドバイザー（全学教育機構等との連携）
    - ✓ 中央図書館と工学部図書館で実施中、農学部で後期から実施予定。内容は自然科学系基礎科目（数学、化学、etc）
    - ✓ 財源は、図書館予算、学部予算、学内プロジェクト経費
    - ✓ 対応マニュアルを作成し、事前に読んでもらっている
  - ライティングセンター（高等教育研究センターとの連携）
    - ✓ 初年次教育科目「大学生基礎力ゼミ」におけるレポート作成の個別指導とレポート書き方セミナー
    - ✓ 授業履修者のうち成績優良な学生をスカウトし、トレーニングプログラムで教育し、後輩の指導に当たってもらう。
- **学校司書との連携による高大接続の試み**
  - 探究型／アクティブ・ラーニング型の教育をサポートする組織としての、高校図書館に求められる機能を改めて考えるワークショップを開催

本日の研修会は、信大図書館にとっても、大きなチャレンジなのです！

信州大学 | 附属図書館

各ライフステージで情報リテラシーを身につけられる場＝図書館



信州大学 | 附属図書館

まとめ：グループワークに向けて

- 図書館の外側から発想する
  - ✓「図書館が」何をするべきか、から考え始めると、なかなか殻が破れない
    - 生徒は、先生は、何を求めているんだろう？
    - 学校は、社会は、何を求めているんだろう？
- 自分たちも含め、課題解決のリソースになる
  - ✓ 新しいことをしようとする人は結構孤独
    - 図書館員自身が、課題解決に導くためのリソースになれる
    - あなたの周りに困っている人はいませんか？
    - 話せる「人」をつくることが、第一歩
- 理想・構想を描きつつ身近な一歩を踏み出す
  - ✓ 正しい答えを誰かが知っているわけではない
    - 初めから完璧でなくてもいい
    - 最初の一歩をいかに踏み出すか

ヒントは外にある
答えは中にある

信州大学 | 附属図書館

●10分間の休憩と席移動

✓ グループワークは、お隣の共同学習スペースで行います

✓ グループ分けの名簿を確認し、貴重品と筆記用具を持って席を移動してください

✓ その他の荷物はセミナールームに置いておけます

信州大学 | 附属図書館

グループワークのねらい

グループワークのプロセス（例）

グループワーク前半
「課題解決」ワークショップ体験で
①～③を実践する

①課題の認識、アプローチの検討
②事実や事例の確認（情報探索と入手）
③解決策の検討
（入手した情報の評価・検討・咀嚼
→アイデア出し・情報共有）
④ストーリーの組立・執筆
⑤発表

グループワーク後半
「課題解決」ワークショップ体験を踏まえ、
「探究型学習のために図書館ができること」
について、①～⑤を実践する

☆ゴール☆：一人一人が、自分でやってみたいことを見つけ、実践に結び付くような具体的なヒントを持ち帰れること

信州大学 | 附属図書館

グループワーク（前半）「課題解決」ワークショップの体験

Step

- ワークの流れと時間配分の目安11:00～12:30（90分）
  - ✓ 今回は、①～③を実践します
    - ○前半の趣旨説明（5分）
    - ○アイスブレイク：共同ワーク（5分）
      - ・自己紹介、必要な役割（進行役、記録、発表など）の確認
    - ①課題の認識、アプローチの検討：共同ワーク（5分）
    - ②情報探索と入手：個別ワーク（ペアでもOK）（25分）
      - ペアの役割（OPAC→蔵書、ネット上の統計情報等、新聞や論文等のデータベース等）を分担するとスムーズ（？）
    - ③入手した情報の中身を読み、評価・検討・咀嚼→情報共有
      - （ジグソー法を意識）：個別ワーク→共同ワーク（50分）
  - ✓ 後半につなげるために：
    - 前半の振返りと残りのプロセスを確認

信州大学 | 附属図書館

グループワーク（前半）「課題解決」ワークショップの体験

Step

- 課題解決のテーマ一覧

①長野県は長寿県といわれているが、健康寿命はどうなのか？
　健康寿命を延ばすにはどんなことが必要か
②長野県として観光立県をめざすためにするべきことは
③長野県への移住者を増やす手立てにはどんなことがあるか
④農業人口を増やすにはどうしたらよいか。農業で食べられる県にするためにはどんなことが必要か
⑤高齢者でも住みやすい地域にするために、交通網の整備はどうしたらよいか？お年寄りの足の確保のためにできることは
⑥長野県でも増えている空き家対策についてどう考えるか
⑦長野県の出生率を上げるには

参考：「わたしたちの信州学」長野県教育委員会（平成28年6月）
政府統計の総合窓口　http://www.e-stat.go.jp/
地域経済分析システムRESAS（リーサス）https://resas.go.jp/

信州大学 | 附属図書館

信大図書館の情報探索・入手の方法　その①

- 信州大学中央図書館の蔵書について
  - ✓ OPACで検索し、書架で探してテーブルに持ってくることができます（参考図書などの禁退出本も含みます。貸出手続きは不要です）
    →OPACの使い方「利用案内」p.6-7参照
    →「館室」を中央図書館に絞り込む
  - ✓ 所在が「書庫」の場合や、配架場所が分からない等困った時は、研修会場やカウンターの信大図書館職員（青のネームストラップ）にお尋ねください
    →館内マップ「利用案内」p.21参照

信州大学 | 附属図書館

信大図書館の情報探索・入手の方法　その②

- データベース、インターネットの使用について
  - ✓ 各班で、ネットワーク接続したノートPCが使えます
  - ✓ 必要に応じて、タブレットも貸出します
    →各テーブルにネットワークのつなぎ方マニュアルあり
  - ✓ データベースは、信大図書館ホームページの「資料を探す」メニューからご利用ください
    →使えるデータベース「利用案内」p.14-15参照
    →「利用案内」にはありませんが、ヨミダスも使えます
    →Japan Knowledge 、聞蔵、医中誌は、研修用に同時アクセスの制限をなくしていただいています

信州大学 | 附属図書館

情報探索・入手の方法　オプション

- 自館だけでは資料が足りない場合の方策
  - ✓ 県立図書館や市町村立図書館
    長野県内図書館横断検索サービス
    （http://www2.library.pref.nagano.jp/）
  - ✓ 大学図書館
    大学図書館の本をさがす（CiNii Books）
    （http://ci.nii.ac.jp/books/）
    →信州大学附属図書館の場合：
    直接利用：学外者も学術研究、調査学習で利用可→ p.3参照
    相互貸借（ILL: Inter Library Loan）
    ＝図書館を介した図書やコピーの取寄せ
  - ✓ 国立国会図書館
    国立国会図書館サーチ（http://iss.ndl.go.jp/）
    レファレンス協同データベース
    （ http://crd.ndl.go.jp/reference/ ）

信州大学 | 附属図書館

グループワーク（後半）
「探究型学習のために図書館ができること」の提案

- ワークの流れと時間配分の目安

Jump

13:30～14:40, 14:40～15:20（80分+40分）

✓ 今回は、①～⑤まで実践します

✓ ラウンドロビンの考え方で全員が発言するようにします

○後半の趣旨説明（5分）

①課題の認識＝前半の振り返り：共同ワーク（ 5分）
実際に課題解決のワークショップをしてみて、どんな問題がありましたか？何が必要でしたか？

②事実や事例の確認＝実践例を共有：共同ワーク（10分）
既に実践していることがあればメンバー間で共有し、良いところ取りをしましょう

信州大学 | 附属図書館

グループワーク（後半）
「探究型学習のために図書館ができること」の提案

- ワークの流れと時間配分の目安（つづき）

Jump

13:30～14:40, 14:40～15:20（80分+40分）

③解決策の検討＝アイデア出し・情報共有
：個別ワーク（10分）＋共同ワーク（40分）：
・効果的な探究型学習を進めるため高校図書館ができることについてアイデアや、必要な要素を付箋に書いてみます
・付箋に書いたアイデアや要素のグルーピングを行ったり、模造紙やホワイトボードを活用して議論を進めてください

④ストーリーの組立・発表準備：共同ワーク（10分）：
・自分たちが考えたアイデアや必要な要素をまとめ、3分で人に伝えるためのストーリーを組み立てます。
ストーリーの軸「サブタイトル」を決めるのも有効。

⑤発表（3分）：1グループ3分×12グループ
・ストップウォッチで時間をはかります！

信州大学 | 附属図書館

● 発表と席移動

✓ 発表はセミナールームで行います

✓ 発表資料は、PPT／模造紙／ホワイトボードに書いていただいた成果物を写真撮影し、セミナールームのスクリーンに投影します（担当者が回収にまわります）

✓ 発表時は、全員が前に出て行います

※時間が限られているので、速やかな移動にご協力をお願いいたします！

信州大学 | 附属図書館